

主題名 よりよい社会をつくるために

第1学年 C- (12) 社会参画, 公共の精神



1 生徒の実態 ポイントⅠ

身近な人のことについて考えられる生徒が多いが, 社会の一員としての認識が浅く, ボランティア活動等, 社会における様々な活動に積極的に参加しようとする生徒が少ない。

2 ねらい ポイントⅠ

「社会に関わること」の意義について考えることを通して, 社会の一員であるという自覚を深め, よりよい社会をつくらうとする態度を育む。

3 教材名(出典) 「僕たちの未来」(光村図書「中学道徳1年 きみがいちばんひかるとき」)

4 考えさせたいこと ポイントⅠ

地域社会の課題を自分事として捉え, 自分にできることを模索しながら, 社会に関わることの意義について考えさせたい。

5 学習指導過程 ポイントⅠ

過程	学習活動と主な発問 (○基本発問, ◎中心発問, ・補助発問)	・予想される生徒の発言	□指導上の留意点 ◆評価の視点(方法)
導入 5分	<p>1 ボランティア活動のイメージを確認し, 本時の学習課題について知る。</p> <p>○ボランティア活動にはどのような活動がありますか。</p> <p>○ボランティア活動は何のために, 誰のためにするのだと思いますか。 ポイントⅠ</p>	<p>・募金活動</p> <p>・災害ボランティア</p> <p>・清掃活動</p> <p>・困っている人を助けるため。</p> <p>・地域をよくするため。</p> <p>・高齢者のため。</p>	<p>□ボランティア活動のイメージを確認し, 社会との関わりについて振り返らせる。</p> <p>□生徒の実態から, ボランティア活動についての認識が低いことが予想されるので, 具体的なボランティア活動を想起させる。電子黒板にボランティア活動の様子の写真を提示してイメージをより明確にさせる。</p>
	よりよい社会をつくるために大切なことは何だろう		
展開 40分	<p>2 教材「僕たちの未来」(P104~107)を読んで, 「僕」の気持ちの変化について考える。</p> <p>○「僕」が早々に後悔し始めたとき, どのようなことを考えていたのでしょうか。</p> <p>・後悔し始めたときの「僕」の心の声を代弁してみよう。</p> <p>○浜井さんの話を聞いて, 胸が熱くなってくるを感じたのは, 「僕」がどんなことに気付いたからですか。(ワークシート記入)</p>	<p>・思ったより大変な作業だ。</p> <p>・蒸し暑くて早く帰りたい。</p> <p>・参加するなんて言わなければよかった。</p> <p>・20年以上も続いている活動に自分も参加している一員になれたと感じたから。</p> <p>・私たちが生まれる前から天明町をよくしようと取り組まれてきた活動ということが分かったから。</p>	<p>□天明中学校のボランティア活動や有明海について, 電子黒板に写真, イラストを提示し, 視覚的にイメージをもたせる。</p> <p>□明確な目的意識をもって参加していたのではなかったために, 作業の大変さから積極的な態度ではなくなった「僕」の気持ちに共感させる。</p> <p>□板書を上下に書くことで, 後悔し始めたときの気持ちと浜井さんの話を聞いた後の気持ちを視覚的に比較させる。</p>

<p>展開 40分</p>	<p>・「僕」は浜井さんのどのような思いに気付いたのでしょう。</p> <p>・「僕」の行動が変わったのは、どのようなことに気付いたからですか。</p> <p>○集合写真を撮っているときに、「僕」はどんなことを考えていたと思いますか。</p> <p>・「僕」が考えていた僕たちの未来はどのような未来でしょう。</p> <p>3 よりよい社会をつくるために大切な考えについて話し合う。</p> <p>◎私たちの社会をよりよくするために、どのような考えが大切だと思いますか。(ワークシート記入, 話し合い)</p> <p style="text-align: right;">ポイント 2</p>	<p>・この活動が20年後も続いていくようにしていきたい。</p> <p>・天明町がさらによりよくなるように考えていた。</p> <p>・自分の住んでいる地域や身近な社会に関心をもつ。</p> <p>・他人事にしないで、社会の一員としての自覚をもつ。</p> <p>・社会をよくするために、自分が所属している社会について知ろうとする。</p>	<p>□「僕」が今の地域だけではなく、地域の未来について考えていたことを確認させる。</p> <p>□多様な考えに触れさせるために、班で意見を交流させる。</p> <p>□全体でも意見を確認し、考えの根拠を問うことで、大切なことについて多面的・多角的に考えさせる。 ポイント 2</p> <p>◆社会をよりよくするために大切なことについて、多面的・多角的に考えているか。(ワークシート, 発言)</p>
<p>終末 5分</p>	<p>4 本時の学習を振り返り、自分たちの住む地域や社会をよりよくするために自分たちにできることについて考える。(ワークシート記入)</p> <p style="text-align: right;">ポイント 2</p>	<p>・学校で取り組んでいる活動に協力することから始めたいと思った。</p> <p>・今までは、誰かに言われてから参加することが多かったけれど、自ら積極的に参加していきたい。</p>	<p>◆自分の住む地域にも目を向けて、自分にできることについて考えるなど、よりよい社会をつくることについて自分との関わりの中で考えているか。(ワークシート)</p> <p style="text-align: right;">ポイント 3</p>

6 評価の視点

- ・「僕」の心情や社会をよりよくするために大切なことについて、多面的・多角的に考えていたか。
- ・よりよい社会をつくることについて、自分との関わりの中で考えを深めていたか。

ポイント 1 「考えさせたいこと」を基に学習活動を設定する

本教材は、社会参画の一つとしてボランティア活動を取り上げている。本校では、委員会の取組としてリサイクル活動を行っているが、参加率が低い。また、中学生を対象とするボランティア活動の広報が少ないことや、普段の会話にもボランティア活動が話題としてあまり挙がらないことから、ボランティア活動を経験している生徒が少ないという実態があると捉えていた。しかし、導入の段階で、ボランティア活動を経験している生徒が多いことが分かった。

普段の言動からは分からない生徒の実態を捉えるためには、見取りだけではなく、事前アンケート等の活用が考えられる。また、中学校は教科担任制ということもあり、学級担任が気付かない生徒の実態もある。そこで、教職員間の情報交換が重要となってくる。生徒の実態を正確に捉えることで、考えさせたいことが明確になる。

よりよい社会をつくる態度を育むために、社会に関わることの意義を考えさせたかったが、導入で教材の内容に興味や関心をもたせる発問をしたことにより、「ボランティア活動の意義」を考えることに留まっている生徒が見られた。そのため、「よりよい社会とはどういうことですか」など、主題に関わる問題意識をもたせる導入も考えられる。

ポイント 2 学習活動を基に生徒の様々な学びの姿を想起する

1 中心発問におけるグループ討議【多様な意見に触れることで、自己の考えを深める】

中心発問は、様々な意見が出てくると予想した。そこで、自己の考えを深めることを目的に、班で意見交流する活動を設定した。ワークシートにも「良いと感じた他の人の意見」を記入する欄を設定することで、他者の考えを理解しようとする姿が見られた。

2 自分との関わりで考える発問

教材の内容から発展させ、自分が住む社会について考える場面を設定した。身近な地域について考えることで、自分との関わりで考えている生徒が多かった。

(3) 自分の住む地域、社会をよりよくするために自分にできることを考えてみましょう。

私は、ボランティアに限りず、みどころからあてつをしたり、年おりの方には、困っていることを手伝ったり、私の住むところには外人さんもいるので、こまめにいたり助けたいなと思いました。

(3) 自分の住む地域、社会をよりよくするために自分にできることを考えてみましょう。

ゴミが捨ててあふれたり、少しづつゴミがたまりしている場所があれば見て見ぬふりをしないように、捨てる、キレイにしたりしたい。
ゴミの分別 水の使い方

ポイント 3 生徒の学びの姿を見取る（具体的な評価の方法）

1 生徒の気づきの記録

多面的・多角的に考えるきっかけの多くは、他の人の意見や考えにふれたときであると考えられる。そこで「自分の考え」と「良いと感じた他の人の意見」という欄を並列したワークシートを作成した。「良いと感じた他の人の意見」の欄に記入したことは、自らの考えをさらに深めるきっかけになった意見であると考えられる。この授業の中で、生徒がどのように考えを深めていったのかを捉えることができるので、生徒の思考の変容を見取るのに適していると考えた。生徒は様々なことを記入していて、他者の考えから気づきを得られたことが見取れた。

(2) 私たちの社会をより良くしていくためにはどのようなことが大切だと思いますか。

自分の考え	良いと感じた他の人の意見
<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が社会をよりよくすることに、高い意識を持つこと。 今できることは何なのかを考えて行動すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 小さな身近なことから始める（行動する） 自分たちからボランティアに参加 - うけつぐ 積極的 - かける思いが大切 自分からやっていく 見返りを求めず他の人の力に 過去・未来のためにできるかぎり

2 4段階（選択制）評価と記述による振り返りの実施

表現力や読解力等に課題があるために適切な記述ができない生徒がいる。そこで、4段階（選択制）評価と記述による振り返りを取り入れ、評価の一助としている。

振り返り

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| ①今日の授業で新しい発見や学びがあった。 | 【 ④ 3 2 1 】 |
| ②仲間の考えを聞いて、自分の考えが深まることがあった。 | 【 ④ 3 2 1 】 |
| ③自分の行動を振り返る機会となった。 | 【 ④ 3 2 1 】 |

今日の授業を振り返って

この話の僕のように私が (地域名) のためにできることは何かあるのかとより深く考えることができた。「ボランティア」として多く人の活動があり、地域の歴史や思いを受けついでいるものもある。それを私も受けつぐ一人になれたら良いと思う。

その他の学習指導の様子

1 ICT の活用

道徳科では、読み物教材の文章を正確に読み取ること以上に、その場面の状況をつかむことが重要になる。本実践では、視覚的にアプローチすることで、教材の場面の状況を把握できると考え、大型提示装置（電子黒板）に教材の内容の背景となる写真や図を提示した。有明海の様子やボランティア活動の様子を示すことで場所や活動イメージがもてているようだった。また、教材への生徒の関心を高めることにもつながった。補助的な形で ICT を利用することが有効であると考えられる。



2 板書の工夫

本時の主題について深く考えるために、主人公の行動と心情の変化を明確にする必要があると考えた。そこで、生徒の思考を深める手立ての一つとして、主人公の心情を上下に分けて板書した。下部に「初めの行動・心情」を書き、上部に「変化した行動・心情」を書いた。主人公の心情の変化を成長と捉えられるように、上部に「変化した行動・心情」を書いた。このように板書の工夫をすることで、主人公の行動と心情の変化を比較しやすくなり、道徳的価値へのアプローチにつながると考えられる。

